

科目名		ナンバリング	授業形態	必修／選択	単位数	学科・学年	開講学期
評価実習		41007802	臨地実習	必修	3	PT・3	前期
担当者		研究室		連絡先		オフィスアワー	
横山 暁大、小島 一範、田村 正樹		研究室 6-4		yokoyama@opu.ac.jp			
授 業 の 概 要	基幹科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習において、様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査・測定等を適切に実施することを学ぶ。						
授 業 の 方 法	実習形式						
学 習 上 の 助 言	学外実習（医療施設等での実習となります。）知識・技術だけでなく医療人として適切な対応が望まれます。						
教 科 書	これまでに購入した教科書						
参 考 書	実習先の特性に応じた参考書						
到達目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある対応と専門職業人として責任ある姿勢を修得する。				DP1、DP2		
②	臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。				DP2		
③	対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。				DP2		
④	実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。				DP2、DP4		
⑤	チーム医療における理学療法士の役割を理解する。				DP2、DP3		
⑥	対象者を取り巻く環境および制度等へ意識を向け、その影響・変化・課題に気づく。				DP2、DP3		
講 義 計 画							
回	学習内容等			事前事後学習内容・必要時間（時間）			
1	オリエンテーション			検査・測定・評価に関する内容			1
2	医療面接試験			検査・測定・評価に関する内容			1
3	医療面接試験			検査・測定・評価に関する内容			1
4	実習オリエンテーション 評価計画の立案			検査・測定・評価に関する内容			1
5	臨床現場の見学・模倣			検査・測定・評価に関する内容			1
6	事例への評価実施			検査・測定・評価に関する内容			1
7	臨床場面の見学・模倣			検査・測定・評価に関する内容			1
8	対象者への評価実施			検査・測定・評価に関する内容			1
9	評価結果の解釈			検査・測定・評価に関する内容			1
10	臨床現場の見学・模倣			検査・測定・評価に関する内容			1
11	対象者への評価実施			検査・測定・評価に関する内容			1
12	評価結果の統合・解釈・まとめ			検査・測定・評価・統合解釈に関する内容			1
13	実習実施報告会での発表			臨床現場で学んだ内容のまとめ			1
14	実習実施報告会での発表			臨床現場で学んだ内容のまとめ			1
15	実習実施報告会での発表			臨床現場で学んだ内容のまとめ			1

試	レポート・その他で判断する。	
---	----------------	--

成績評価の方法			
評価方法	評価割合	到達目標	評価の実施方法と注意点
試験		①	
		②	
		③	
		④	
		⑤	
		⑥	
レポート	50%	①	✓
		②	✓
		③	✓
		④	✓
		⑤	✓
		⑥	✓
成果発表		①	
		②	
		③	
		④	
		⑤	
		⑥	
その他	50%	①	✓
		②	✓
		③	✓
		④	✓
		⑤	✓
		⑥	✓

備 考			
担当教員：横山 暁大、小島 一範、田村 正樹 教員の実務経験：理学療法士として 5 年以上の実務経験があります。臨床現場での豊富な経験を基に、実践的な技術指導や現場で役立つ知識を提供します。			

科目名		ナンバリング	授業形態	必修／選択	単位数	学科・学年	開講学期
総合実習Ⅱ		41008002	臨地実習	必修	8	PT・4	前期
担当者		研究室		連絡先		オフィスアワー	
鈴木 啓子、那須 宣宏、増川 武利		研究室 7-8		suzuki@opu.ac.jp			
授 業 の 概 要		実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という理学療法の全過程を実践し、多職種連携の実際を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力に磨きをかける。また、専門技能錬成プログラムと展開力育成プログラムを有機的に組み合わせて運用することにより、職業現場を主導できる高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。専門技能錬成プログラムは、理論に裏付けられた深い応用力を修得できる応用治療技術実習と総合実習Ⅱを連動させることにより、対象者の疾病への理解や各種治療に至る思考過程を練磨し、一段高い実践力を身につける。また、展開力育成プログラムのサービス革新モデルあるいは地域活性化モデルで学んだ他分野の視点と知識を活用して、対象者の生活上の課題や地域生活における課題の解決に向けて、「気づき」を深め、アイディアを創出し、サービス革新と新たなサービス創出につなげていく豊かな創造力を養う。					
授 業 の 方 法		理学療法学科 40 名 実習 プレゼンテーション 1 施設 1～2 名程度					
学 習 上 の 助 言		学外実習（医療施設等での実習となります。）知識・技術だけでなく医療人として適切な対応、問題解決能力と実践力が望まれます。					
教 科 書		実習で必要とするすべての専門書					
参 考 書		実習先の特性に応じた参考書					
到達目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	諸種の理学療法評価技術を修得する。				DP1、DP2		
②	理学療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握できる。				DP2、DP4		
③	対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。				DP2、DP4		
④	評価・治療計画立案・実施・考察という理学療法の全過程を体験し実践する。				DP2、DP4		
⑤	対象者に必要な理学療法治療技術・指導・支援方法と応用力を修得する。				DP2、DP4		
⑥	チーム医療における理学療法士の役割を認識し、情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。				DP1、DP2、DP3		
⑦	対象者を取り巻く環境および制度等の課題について、「気づき」を深め、解決案の提案につなげていくことができる。				DP2、DP3		
講 義 計 画							
学習内容等				事前事後学習内容・必要時間（時間）			
【実習前】 オリエンテーション 【第 1 週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施 【第 2 週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施 【第 3 週～第 7 週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携を実施 【第 8 週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ 【実習後】 実習実施報告会での発表、 OSCE 内容：理学療法評価（検査・測定）、訓練 医療面接/バイタルチェック/形態測定/ROM-t/MMT/ DTR's/BRST/感覚検査/ROM-ex/筋力増強運動 ※実習時間は 1 日 8 時間とする。				実習前 実習概要の確認 1 第 1 週～第 8 週 理学療法評価、プログラムに関する内容 1 実習後 実習内容の確認 1			
試	実習時間、実習課題の実施状況、実習実施報告会、OSCE						

成績評価の方法					
評価方法	評価割合	到達目標			評価の実施方法と注意点
試験		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			
		⑥			
		⑦			
レポート		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			
		⑥			
		⑦			
成果発表	50	①	✓	実習実施報告会	
		②	✓		
		③	✓		
		④	✓		
		⑤	✓		
		⑥	✓		
		⑦	✓		
その他	50	①	✓	デイリーノート、OSCE	
		②	✓		
		③	✓		
		④	✓		
		⑤	✓		
		⑥	✓		
		⑦	✓		
備 考					
担当教員：鈴木 啓子、那須 宣宏、増川 武利					
教員の実務経験：理学療法士として 5 年以上の実務経験があります。臨床現場での豊富な経験を基に、実践的な技術指導や現場で役立つ知識を提供します。					

科目名		ナンバリング	授業形態	必修／選択	単位数	学科・学年	開講学期
物理療法実習		41005502	実習	必修	1	PT・3	前期
担当者		研究室		連絡先		オフィスアワー	
田中 雅侑、田村 正樹		研究室 7-3		tanaka@opu.ac.jp			
授 業 の 概 要	「物理療法」の内容を基に、温熱療法・光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法・マッサージ療法（浮腫軽減）の実技を学ぶ。						
授 業 の 方 法	1 クラス 40 名以下、実習中心の内容でアクティブラーニングの手法をとる。各種検査用具を持参し、動きやすい服装で実技を行う。						
学 習 上 の 助 言	この授業では、解剖学、生理学、運動学、物理療法で学んだ知識が必要となるので、復習しておくことが望ましい。						
教 科 書	① 石川朗 総編集、日高正巳・玉木彰 責任編集：15 レクチャーシリーズ 物理療法学・実習、中山書店、2014 年（ISBN：978-4-521-73670-9）						
参 考 書	その他の物理療法に関する参考書						
到達目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	温熱療法・寒冷療法が使用できる。				DP1, DP2		
②	光線療法が使用できる。				DP1, DP2		
③	電気刺激療法が使用できる。				DP1, DP2		
④	牽引療法ができる。				DP1, DP2		
⑤	マッサージ療法ができる。				DP1, DP2		
⑥	超音波療法が使用できる				DP1, DP2		
講 義 計 画							
回	学習内容等			事前事後学習内容・必要時間（時間）			
1	講義概要の説明、小テスト			物理療法で学んだ内容を再度学習する。（教科書①11～162 ページ）			2
2	温熱療法・光線療法・寒冷療法			温熱療法・光線療法・寒冷療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解する。（教科書①11～46 ページ、47～58 ページ、59～70 ページ）			1
3	牽引療法・マッサージ療法			牽引療法・マッサージ療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解する。（教科書①143～152 ページ、153～162 ページ）			1
4	超音波療法・電気刺激療法			電気刺激療法と超音波療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解する。（教科書①83～94 ページ、95～142 ページ）			1
5	超音波療法・電気刺激療法			電気刺激療法と超音波療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解する。（教科書①83～94 ページ、95～142 ページ）			1
6	グループワーク（各種物理療法）			各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）			1
7	グループワーク（各種物理療法）			各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）			1
8	グループワーク（各種物理療法）			各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）			1
9	グループワーク（各種物理療法）			各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）			1
10	グループワーク（各種物理療法）			各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）			1
11	グループワーク（各種物理療法）			各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）			1

12	グループワーク（各種物理療法）	各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）	1
13	グループワーク（各種物理療法）	各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）	1
14	グループワーク（各種物理療法）	各種物理療法の適応、禁忌、注意点、実施方法を理解し、実践する。（教科書①11～162 ページ）	1
15	小テスト、実技試験の準備	物理療法に関する基礎知識を修得し、学外実習を想定した一連の流れを理解する。（教科書①11～162 ページ）	2
試	定期試験を行う		

成績評価の方法					
評価方法	評価割合	到達目標			評価の実施方法と注意点
試験	100	①	✓	実技試験（80 点）と筆記試験（20 点）を行う。試験は講義を行った範囲から出題する。注意点としては、実技試験ではケーシーを着用し、身だしなみも学外実習と同様に整えることである。	
		②	✓		
		③	✓		
		④	✓		
		⑤	✓		
		⑥	✓		
レポート		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			
		⑥			
成果発表		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			
		⑥			
その他		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			
		⑥			
備 考					
担当教員：田中 雅侑、田村 正樹					
教員の実務経験：両者ともに理学療法士として 5 年以上の実務経験を有しており、臨床現場での経験を基に実践的な技術指導や現場で役立つ知識を提供します。					

科目名		ナンバリング	授業形態	必修／選択	単位数	学科・学年	開講学期
理学療法治療学実習Ⅰ		41006002	実習	必修	1	PT・2	後期
担当者		研究室		連絡先		オフィスアワー	
田村 正樹、下瀬 良太		研究室 7-7		tamura@opu.ac.jp			
授 業 の 概 要		理学療法治療学Ⅰ・Ⅱの内容を基に、神経系疾患の機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。					
授 業 の 方 法		1 クラス 40 名講義、実習中心のため、各種検査用具を持参し、動きやすい服装で実技を行う。					
学 習 上 の 助 言		この授業では、解剖学、運動学、神経内科学、理学療法治療学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識が必要となるので、復習しておくことが望ましい。特に脳や脊髄に関する範囲の復習が望ましい。事前に講義資料を配布するため、予習と復習を継続的にを行うことを推奨する。					
教 科 書		①鈴木 俊明・中山 恭秀 編集：Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ．メジカルビュー．2019 年（ISBN978-4-7583-2002-3） ②中山 恭秀・鈴木 俊明 編集：Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ．メジカルビュー．2019 年（ISBN978-4-7583-2003-0）					
参 考 書		原 寛美・吉尾 雅春 編集：脳卒中理学療法の理論と技術 第 5 版．メジカルビュー．2025 年（ISBN978-4-7583-2278-2）					
到達目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	神経系疾患の障害像を理解することができる。				DP2		
②	神経系疾患の評価項目を実施することができる。				DP2		
③	神経系疾患の画像を理解することができる。				DP2		
④	理学療法の実施ができる。				DP2		
⑤							
⑥							
講 義 計 画							
回	学習内容等			事前事後学習内容・必要時間（時間）			
1	脳卒中片麻痺の障害像を理解する			脳卒中で生じる代表的な症状を理解する。（教科書①26～36 ページ）1			
2	脳卒中片麻痺患者に対する治療① 起居動作			脳卒中患者の起居動作時の注意点と評価・介入方法を理解する。（教科書①81～89 ページ）1			
3	脳卒中片麻痺患者に対する治療② 起立動作			脳卒中患者の起立動作時の注意点と評価・介入方法を理解する。（講義資料を参照）1			
4	脳卒中片麻痺患者に対する治療③ 立位			脳卒中患者の立位時の注意点と評価・介入方法を理解する。（教科書①66～70 ページ）1			
5	脳卒中片麻痺患者に対する治療④ 歩行			脳卒中患者の歩行時の注意点と評価・介入方法を理解する。（教科書①70～72 ページ、90～99 ページ、108～130 ページ）1			
6	脳卒中片麻痺患者に対する評価① 総合評価			脳卒中患者の総合評価について、評価方法を理解する。（教科書①72～75 ページ）1			
7	脳卒中片麻痺患者に対する評価② 高次脳機能検査 記憶・注意			脳卒中患者の高次脳機能検査（記憶・注意）について、評価方法を理解する。（教科書①142～163 ページ）1			
8	脳卒中片麻痺患者に対する評価③ 高次脳機能検査 空間認知			脳卒中患者の高次脳機能検査（空間認知）について、評価方法を理解する。（教科書①55～59 ページ、142～163 ページ）1			
9	脳画像読影			脳卒中患者の脳画像読影の方法を理解する。（教科書①2～23 ページ、26～36 ページ）1			
10	パーキンソン病患者に対する評価			パーキンソン病患者に対する評価方法を理解する。（教科書②2～19 ページ、22～34 ページ）1			
11	パーキンソン病患者に対する治療			パーキンソン病患者に対する治療介入を理解する。（教科書②35～41 ページ）1			
12	脊髄小脳変性症患者に対する評価			脊髄小脳変性症患者に対する評価方法を理解する。（教科書②42～54 ページ）1			
13	脊髄小脳変性症患者に対する治療			脊髄小脳変性症患者に対する治療介入を理解する。（教科書②54～61 ページ）1			

14	脳性麻痺患者に対する理学療法	脳性麻痺患者に対する評価方法と治療介入を理解する。(講義資料を参照)	1
15	脊髄損傷患者に対する理学療法	脊髄損傷患者に対する評価方法と治療介入を理解する。(教科書①164～237 ページ)	1
試	定期試験を行う		

成績評価の方法					
評価方法	評価割合	到達目標			評価の実施方法と注意点
試験	100	①	✓	筆記試験を行う。試験は講義を行った範囲から出題する。	
		②	✓		
		③	✓		
		④	✓		
		⑤			
		⑥			
レポート		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			
		⑥			
成果発表		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			
		⑥			
その他		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			
		⑥			
備 考					
担当教員：田村 正樹、下瀬 良太					
教員の実務経験：両者ともに理学療法士として 5 年以上の実務経験を有しており、臨床現場での経験を基に実践的な技術指導や現場で役立つ知識を提供します。					

科目名		ナンバリング	授業形態	必修／選択	単位数	学科・学年	開講学期
基礎理学療法学		41004002	講義	必修	2	PT・2	前期
担当者		研究室		連絡先		オフィスアワー	
片岡 弘明		研究室 6-2		kataoka@opu.ac.jp			
授 業 の 概 要		運動学で学習した知識を踏まえ、正常な基本的動作の遂行に必要な心身機能を理解するとともに、疾患や障害による動作障害の特徴を正常と対比させ運動学的に理解する。よって、講義に際しては運動学の基礎知識を自主的に予習・復習すること。毎回小テストを実施し、現状を把握して予習・復習に繋げる。					
授 業 の 方 法		1 クラス 40 名以下、講義形式（座学）で行う。適宜、画像や動画を提示し、正常および異常動作についてディスカッションしながら基本的動作や応用的動作について理解を深める。					
学 習 上 の 助 言		運動学で学んだ知識が必要となるので、復習をしておくこと。毎回「復習課題」を配布するので必ず取り組むこと。					
教 科 書		石井慎一郎 編著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践. MEDICAL VIEW. 2024 年 (ISBN978-4-7583-1474-9)					
参 考 書		中村隆一・他 原著：基礎運動学 第 7 版. 医歯薬出版株式会社. 2025 年 (ISBN978-4-263-26682-3)					
到達目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	運動学で学習した基礎知識をもとに、姿勢・動作との関連性がわかる。				DP2		
②	姿勢・動作に及ぼす随意運動と反射について理解できる。				DP2		
③	基本的動作のメカニズムが理解できる。				DP2		
④	基本的動作介助のメカニズムが理解できる。				DP2		
⑤							
⑥							
講 義 計 画							
回	学習内容等			事前事後学習内容・必要時間（時間）			
1	基礎理学療法学 総論			教科書 2～12 ページを読んで理解する 4			
2	運動学の基礎（姿勢の生体力学、動作の生体力学）			事前に運動学を復習する 復習課題で知識を整理する 4			
3	運動器の構造と機能			事前に運動学を復習する 復習課題で知識を整理する 4			
4	姿勢分析（臥位；仰臥位、側臥位、腹臥位など）			教科書 14～24 ページを理解する 復習課題で知識を整理する 4			
5	動作分析（寝返り動作）			教科書 30～58 ページを理解する 復習課題で知識を整理する 4			
6	動作分析（起き上がり動作）			教科書 82～107 ページを理解する 復習課題で知識を整理する 4			
7	姿勢分析（座位）			教科書 14～24 ページを理解する 復習課題で知識を整理する 4			
8	動作分析（立ち上がり動作）			教科書 122～137 ページを理解する 復習課題で知識を整理する 4			
9	姿勢分析（立位）			教科書 14～24 ページを理解する 復習課題で知識を整理する 4			
10	動作分析（正常歩行）			教科書 168～178 ページを理解する 復習課題で知識を整理する 4			
11	動作分析（異常歩行）			復習課題で知識を整理する 4			
12	動作分析（移乗・移動動作）			配布資料を復習する 4			
13	基本動作と応用動作			配布資料を復習する 4			
14	臨床推論（Ⅰ）姿勢（臥位、座位、立位など）			事前に 4、7、9 回目の授業内容を復習する 配布資料を復習する 4			
15	臨床推論（Ⅱ）動作（正常歩行、異常歩行）			教科書 203～239 ページを理解する 配布資料を復習する 4			
試	定期試験を行う						

成績評価の方法				
評価方法	評価割合	到達目標		評価の実施方法と注意点
試験	80	①	✓	筆記試験を学期末に行う。試験範囲は最後の授業で説明する。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤		
		⑥		
レポート		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
成果発表		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
その他	20	①	✓	復習課題で評価する。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤		
		⑥		
備 考				
担当教員：片岡 弘明				
教員の実務経験：理学療法士として17年の実務経験がある。臨床現場での豊富な経験を基に、理学療法士としての基盤となる知識を教授する。				

科目名		ナンバリング	授業形態	必修／選択	単位数	学科・学年	開講学期
作業療法演習Ⅰ		42006302	演習	選択	2	OT・2	後期
担当者		研究室		連絡先		オフィスアワー	
野口 泰子		研究室 8-8		noguchi@opu.ac.jp			
授 業 の 概 要	身体障害、老年期障害領域において臨床場面で遭遇する多様な患者に対して、患者に適した作業療法を実施するために演習を通じて知識の統合を図る。事例やペーパーペイシェントを活用し作業療法評価から治療プログラムの立案までの基本的な臨床的思考能力を鍛える。また、実際の訓練や治療場面を想定しながらアプローチ方法を組み立て、実技を交えて実践し知識と技術の定着を図る。						
授 業 の 方 法	事例検討を通じ、作業療法の評価、目標立案、プログラム立案・経過を学び、臨床思考を深める。レジュメ作成を行い、症例を多角的に捉える方法を習得する。						
学 習 上 の 助 言	臨地実習を念頭に置いた講義であり、レジュメ作成を数症例行うため、基礎的な PC 操作を求められる。						
教 科 書	配布資料						
参 考 書	配布資料						
到達目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	臨地実習における基本的姿勢を理解することができる。				DP2		
②	臨地実習における各種情報収集をまとめることができる。				DP2		
③	教科書上の事例から臨床推論を考えることができる。				DP2		
④	教科書上の事例のレジュメ作成ができる。				DP2		
⑤							
⑥							
講 義 計 画							
回	学習内容等			事前事後学習内容・必要時間（時間）			
1	オリエンテーション/臨地実習における基本的姿勢①			配布資料を復習して理解する。			1
2	臨地実習における基本的姿勢②			配布資料を復習して理解する。			1
3	事例報告から学ぶ①			配布資料を復習して理解する。			1
4	事例報告から学ぶ②			配布資料を復習して理解する。			1
5	事例報告における文章作成の留意点①			配布資料を復習して理解する。			1
6	事例報告における文章作成の留意点②			配布資料を復習して理解する。			1
7	事例報告の作成方法について①			配布資料を復習して理解する。			1
8	事例報告の作成方法について②			配布資料を復習して理解する。			1
9	事例報告の作成 脳血管障害①			脳血管障害の病態を理解する。			1
10	事例報告の作成 脳血管障害②			事例報告(レジュメ)を作成する。			1
11	事例報告の作成 高齢期①			高齢期・介護保険を理解する。			1
12	事例報告の作成 高齢期②			事例報告(レジュメ)を作成する。			1
13	事例報告の作成 ADL 自立①			ADL 全般を復習して理解する。			1
14	事例報告の作成 ADL 自立②			事例報告(レジュメ)を作成する。			1
15	事例報告の作成 ADL 自立③			事例報告(レジュメ)を作成する。			

試	定期試験を行う	
---	---------	--

成績評価の方法				
評価方法	評価割合	到達目標		評価の実施方法と注意点
試験		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
レポート	60	①	✓	ペーパーペイシエントから、事例報告（レジюме）を作成し提出する。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤		
		⑥		
成果発表	40	①	✓	授業内で教員のサポートを受けながら、毎回事例報告（レジюме）を作成し提出をする．
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤		
		⑥		
その他		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
備 考				
担当教員：野口 泰子				
教員の実務経験：作業療法士として 5 年以上の実務経験がある。臨地実習における作業療法の実践的な技術や知識を提供する。				

科目名		ナンバリング	授業形態	必修／選択	単位数	学科・学年	開講学期	
評価実習		42007502	臨地実習	必修	3	OT・3	前期	
担当者		研究室		連絡先		オフィスアワー		
濱畑 法生、十河 正樹、渡部 悠司		研究室 8-6		hamahata@opu.ac.jp				
授 業 の 概 要		基幹科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの作業療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みに関心し、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。						
授 業 の 方 法		作業療法学学科 40 名 実習 プレゼンテーション						
学 習 上 の 助 言		医療面接試験の合格者						
教 科 書		実習で必要とするすべての専門書						
参 考 書		特に指定なし						
到達目標					関連卒業認定・学位授与方針			
①	対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある対応と専門職業人として責任ある姿勢を修得する。				DP1			
②	臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。				DP2			
③	対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。				DP2			
④	実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。				DP2、DP4			
⑤	チーム医療における作業療法士の役割を理解する。				DP3			
⑥	対象者を取り巻く環境および制度等へ意識を向け、その影響・変化・課題に気づく。				DP3			
講 義 計 画								
回	学習内容等			事前事後学習内容・必要時間（時間）				
1	【実習前】 医療面接試験 オリエンテーション 【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施 【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈 【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈・まとめ 【実習後】 実習実施報告会での発表 ※実習時間は1日8時間とする。			実習指導者の指導のもと必要な学習をすすめていく。1週あたり5時間を目安に自宅等にて学習をすすめていく。				5時間 /1単位
2								
3								
4								
5								
6								
7								

8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
試	定期試験を行う		

成績評価の方法				
評価方法	評価割合	到達目標		評価の実施方法と注意点
試験		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
レポート		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
成果発表		①	✓	実習時間（実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。 実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
		⑥		
その他		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
備 考				
担当教員：濱畑 法生、十河 正樹、渡部 悠司				
教員の実務経験：作業療法士として 10 年以上の実務経験があります。				

科目名		ナンバリング	授業形態	必修／選択	単位数	学科・学年	開講学期	
総合実習Ⅰ		42007602	臨地実習	必修	9	OT・3	後期	
担当者		研究室		連絡先		オフィスアワー		
渡部 悠司、野口 泰子		研究室 8-7		watanabe@opu.ac.jp				
授 業 の 概 要		基幹科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という作業療法の全過程と関連職種との連携を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育て、問題を特定化していく。						
授 業 の 方 法		作業療法学 40 名 実習 プレゼンテーション						
学 習 上 の 助 言								
教 科 書		実習で必要とするすべての専門書						
参 考 書		特に指定なし						
到達目標					関連卒業認定・学位授与方針			
①	基本的な作業療法評価技術を修得する。				DP2			
②	作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。				DP2			
③	対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。				DP2			
④	評価・治療計画立案・実施・考察という作業療法の全過程を修得する。				DP2			
⑤	関連職種と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。				DP3			
⑥	対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。				DP1, 4			
講 義 計 画								
回	学習内容等			事前事後学習内容・必要時間（時間）				
1	【実習前】 オリエンテーション OSCE 内容：作業療法評価（検査・測定）、訓練。 医療面接/バイタルチェック/ 形態測定/ROMt/MMT/DTR's/BRST/ 医療面接/バイタルチェック/ 形態測定/ROMt/MMT/DTR's/BRST/ 認知機能検査/ROM-ex/ 更衣動作訓練/整容動作訓練。 【第 1 週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施 【第 2 週】 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施 【第 3 週～第 8 週】 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携を実施 【第 9 週】 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ 【実習後】 実習実施報告会での発表、			実習指導者の指導のもと必要な学習をすすめていく。1 週あたり 5 時間を目安に自宅等にて学習をすすめていく。				45 時間/1 単位

	※実習時間は 1 日 8 時間とする。		
--	---------------------	--	--

成績評価の方法				
評価方法	評価割合	到達目標	評価の実施方法と注意点	
試験		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
レポート		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
成果発表		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
その他		①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
備 考				
担当教員：渡部 悠司、野口 泰子				
教員の実務経験：作業療法士として 10 年以上の実務経験があります。				